

審判員派遣報告書

1	事業名	四国高等学校バスケットボール新人選手権大会	2	日程	2019年2月9・10日
3	報告者	長谷川 悠貴	4	派遣先	愛媛県総合運動公園体育館 伊予市民体育館

5	大会概要 および 大会結果				
大会名称		四国高等学校バスケットボール新人選手権大会	大会期間		2019/2/9・10
大会内容		四国4県の2チームの代表校が出場する大会。 4チームずつの2つのリーグ戦を戦い、順位決定戦に進む。			

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	2月9日	(女子) 高松南 vs 高知中央	U2	CC 池田 氏(愛媛) U1 若山 氏(徳島)	第1クォーターは接戦となったが、高さに勝る高知中央が第2クォーター以降徐々に点差を離していく展開となった。
2	2月10日	(男子) 高知中央 vs 尽誠学 園	U2	CC 谷 氏(高知) U1 若山 氏(徳島)	拮抗した展開となったが、第3クォーター途中に攻撃のペースを掴んだ高知中央が抜け出し勝利した。

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等				
<p>(女子)高松南 vs 高知中央 講師:前田 喜庸 氏 ○トレイルのポジションアジャスト トレイルから始まるドライブプレイなどの際に、動かないと決めているかのように立っていることがある。プレイにアジャストするように細かな動きを入れていくようにしたい。</p> <p>○C to C CtoCのランの時にはコートの中にしっかりと目を向け自分の見るべきマッチアップに素早く目がいくように注意する。</p> <p>○Flash, Peek リードにいる際にフラッシュをしていないことが何度かあった。全てのシュートに対して確認の意味も込めて、丁寧に積み重ねていきたい。</p> <p>○ゲームを通して 誰のプライマリなのかを常に考えて判定していくこと。ベーシックなメカを徹底して40分間一つひとつの判定を積み重ねること。当たり前だが、それをやりきることが重要だと感じた。クルーやゲームが変わってもそれをこつこつとやり切っていくこと。そのための準備を常に怠らないことを考えてゲームに取り組んでいきたいと感じるゲームだった。</p> <p>(男子)高知中央 vs 尽誠学園 講師:阿部 哲也 氏 ○クロック管理について このゲームでの大きな現象としてショットクロックの管理ができておらず、ショットクロックヴァイオレーションが成立した後のシュートを認めてしまうという事があった。ベンチからアピールがあり確認する流れになったが、クルー同士の話し合いのみで判断してしまった。TOとの確認をすべきだったし、話し合いの中でもブザーが鳴ったという事実についてもっと自分の意見を言うべきであった。何かがあった時こそCCメンタリティを持って、自分が対応していくという意識を持たなくてはならないと思った。正しく起こったことでゲームが運営できるように自分がもっと冷静にいろんなことを考えて対応できるようにしなくてはならない。</p> <p>○オフェンスのアクティングについて 試合を通して、OFがDFファウルに見せかけるようなプレイの判定をDFファウルをコールしてしまうケースがあったと思う。クルーとして情報共有をして3人で判定に一貫性を持てるようにしたい。</p> <p>○ゲームを通して 自分の責任を果たすことの大切さを痛感した1ゲームとなった。自分の責任を一つひとつ確実に押さえながらゲームを進め、何かが起こった時に自分からわかる情報をしっかりと伝え、対応する心構えが必要である。ゲームを振り返ると自分が情報を掴んでいた部分をコートで表現することができなかった結果が判定のミスやクルーでの対応のミスにつながっていると思う。アクティブマインドセットを意識し、もっと自分がゲームを運営していく姿勢を持たなくてはならないし、それができる力を付けなくてはならない。</p> <p>○最後に 四国新人大会に派遣していただきましてありがとうございました。反省点の多い大会となりましたが、課題もはっきりとしました。今後の活動にしっかりと活かしていきたいと思えます。</p>					

審判員県外派遣報告書

1	講習会名 (大会名)	平成30年度四国ブロック審判講習会 A級研修会		
2	報告者	三谷 修司	所属連盟	U-15
3	期 日	平成31年2月9日(土)～10日(日)		
4	講 師	阿部 哲也氏 前田 喜庸氏		
5	参加者	四国ブロック上級・ブロック講習生		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲ ー ム 雑 感
1	2月9日	高知工業-新田	CC	U1:小谷氏 U2:川村氏	スピード、高さで優位な新田が終始ボールを支配しゲームが進んでいった。高知工業も1年生だけだったが最後まで自分たちのプレイをした。
2	2月10日	済美-聖カタリナ	U1	CC:武内氏 U2:池松氏	リバウンドから早い攻撃で得点を重ねていく済美と高さ3Pで得点をしていく聖カタリナの好ゲームであった。終始済美が優位にゲームを進めていった。
3					

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>◎ミーティングを通して</p> <p>1ゲームを映像を通してミーティングをしていただくなかで、現時点での自分自身のプレゼン、ちょっとした仕草や癖などがよく分かり、それを今後どうしていくのかということを考えさせてもらえるいい機会となった。</p> <p>まだまだ上級として当たり前にはできなければならないことができている時があるので、1ゲームを通してやりきることの大切さと思いました。</p> <p>○阿部氏からのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回はメカニクスが大きく崩れることはなかったが、積極的にローテーションを行うことの大切さと、メカを崩さないためのバックペダルの重要性ということを指摘してもらった。 ・センターでのドライブやリバウンドに対応する視線の向け方とアングルの取り方が不十分であること。 ・トレイルである自分から始まるドライブに対するアングルの取り方が不十分であること。 <p>○前田氏からのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コートから目を離したり、走り出す瞬間に下を見るという自分の癖があること。 ・縦のドライブについて誰がどう見るのかということ。 <p>初日に前田氏から講義をしてもらった内容の1つずつ自分が意識をしてできるようになるように、日頃からトライしていきたいと思います。今回の経験をU-15でも広めていくのが自分の役目であるということを理解し実践していきたいです。今回もこのようなすばらしい機会を与えていただきありがとうございました。</p>	

審判員派遣報告書

1	派遣事業名	平成30年度四国ブロック審判講習会	2	派遣期日	平成31年 2月 9日(土)
3	報告者名	谷井 里江	4	派遣先	愛媛県伊予市民体育館

5	大会概要 および 大会結果				
大会名称	平成30年度 第26回四国高等学校 バスケットボール新人選手権大会	大会期間	2月 9日(土)～ 2月10日(日)		
大会内容					

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	2月9日	岡豊 - 富岡東	U2	高橋氏(愛媛県) 吉村氏(高知県)	両チーム選手のサイズも似ていて、よく走るチームであった。岡豊が追いつける場面も見られたが、富岡東が最後までDEFを粘り、勝利した。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>【自身の反省】</p> <p>3POのローテーションで崩れてしまうことが、何度かあった。ボールの動きばかりを追ってしまい、相手レフリーの動きの確認が遅れ、ダブルC(センター)等があった。また、気付くのが遅れ、慌ててローテーションをしてしまい判定ができないこともあった。C(センター)で判定していくという意識をもっとつけなければならぬと感じた。もう一度、メカの理解を行い、ゲームに臨みたい。</p> <p>また、自分のプライマリ・エリアであったが、判定出来ずそのままゲームが流れてしまった場面もあった。プレーの予測をし、良いアングルがとれるようにポジションを変えることが大切だと改めて感じた。判定を行うときでも、プレーを「初め」から「終わり」まで捉えてから、判定していくことが大事だと思った。慌てず適切な距離を保ちながら、予測して動き判定していきたい。</p> <p>プレゼンでは、メリハリをつけることが大事である。声も使っていかなければならない。吹いたものに対して、自身がいないような動きや下を向きベンチに違和感を感じさせてしまうこともあった。ベンチや選手との信頼のためにもそのような行動はやってはいけない。また、審判員の立ち姿、走り方やベンチとのコミュニケーションのとり方等ももう一度、確認していく必要がある。</p> <p>講義にもあったように、バスケットボールはいつ、何が起きかわからないので、バスケットボールの知識をもっとつけないといけないと思った。また、判定したものに対しては、しっかりと把握し、吹き続けることが大事である。また、自分が吹いたものだけでなく、一緒に吹いているレフリーが吹いたものも理解することも大事である。</p> <p>そして、ゲームの初めの笛はとても重要なことが改めて感じた。</p> <p>今回、参加させていただき、私自身メンタル面の未熟さを感じました。過度に緊張してしまい、自分をコントロールできなくなり、判定ができなくなることが多くありました。このことをしっかりと反省し、今後につなげていきたいと思いました。講習会では、3POのメカに関する知識を多くえることができ、非常に学びの多い講習会となりました。学んだことを、つなげていきたいと思えます。</p> <p>今回参加させていただきありがとうございました。貴重な経験となりました。</p> <p>今後ともご指導宜しくお願い致します。</p>	

審判員派遣報告書

1	事業名	四国高等学校バスケットボール 新人選手権大会	2	日程	2019/2/9(土)～10(日)
3	報告者	岩瀬 寛明	4	派遣先	愛媛県松山市

5	大会名称・期間 および 内容等				
	大会名称	四国高等学校バスケットボール新人選手権大会	大会期間	2019/2/9～10	
	内容等	四国4県の男女上位2チームが出場する。予選リーグののち、順位決定戦を行う。			

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	2/9(土)	徳島市立-尽誠学園	U2	CC 前田氏(愛媛) U1 竹村氏(高)	尽誠学園が終始リードを奪い、勝利した。高さで勝る徳島市立とのリバウンドが激しい展開となった。
2	2/10(日)	高瀬-徳島城北	U2	CC 前田氏(愛媛) U1 佐竹氏(高)	最後までどちらが勝つか分からない接戦であった。長身者がいないチーム同士で、両者ともにパスランが目立った。
3					

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等
	<p>・PGCについて テンポセットを手際よく行うことを確認した。特にリバウンドの手の使い方やオンボールディフェンスのつき方など、後に残りそうなケースに関しては、序盤から積極的にコールすることをクルーで共通理解を図った。加えてクルーワークについての確認を念入りに行った。アウトオブバウンズ、チームファウル、EOPやEOGのタイマーの管理など、常にゲーム中に目を合わせることも確認した。</p> <p>・ゲーム後に指導いただいたこと 主にプレゼンについてのご指導をいただいた。動きのアスレチックさを表現するためにどう動くべきか。また、プレゼンで判定に説得力をつけるためにどう見せるかを考えた。自分がすぐに実践できることとして、コールの後の「間」について意識したい。コールののち、スローインなのかフリースローなのかの表現、レポートに行くタイミングや落ち着きの重要性を映像で確認することができた。2or3のフラッシュにしても、右手で行うか左手で行うか、些細なことでも「なぜそれを行うのか」をしっかりと考えて、習慣づけるようにしたい。加えて、ダブルコールが起こった時についても指摘いただいた。自分はすぐにスローインまたはフリースローを示していたが、現象が起こったエリアをすぐに確認し、プライマリーエリアのレフリーにファウル後の処置を示してもらいたいとご指摘いただいた。両レフリーの判定の違いを防ぐためである。(DF or OF) 判定に関しては、イリーガルとマージナルの線引きを、もっと表現できればよいとご指摘いただいた。コールするほどの接触であったのか、選手のRSBQはどうだったのかの判定力をさらにつけていかなければならないと感じた。コール後の選手の反応やベンチの反応をしっかりと見て、ゲームレベルに合ったコールを心掛けて取り組みたいと強く感じた。 今回の講習会では映像を活用することで、自分の改善点をはっきりと理解することができ、今後のレフリー活動に生かしていきたいと強く感じる事ができた。最後になりましたが、このような経験ができる機会を与えてくださり、ありがとうございました。より自身のスキルアップを目指していきたいと思っております。</p>

審判員派遣報告書

1	派遣事業名 第26回四国高等学校 バスケットボール新人選手権大会	2	派遣期日 2019年2月9・10日
3	報告者名 平尾 翔汰朗	4	派遣先 愛媛県総合運動公園体育館・伊予市民体育館

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	第26回四国高等学校バスケットボール新人選手権大会	大会期間	2019年2月9・10日
大会内容	四国の各県予選を勝ち抜いた男女上位2校ずつが出場する大会。 新チームになっての最初の四国大会である。		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	2月9日	城北 vs 聖カタリナ	U2	CC 山田氏(愛媛) U1 玉田氏(徳島)	前半は拮抗した展開であったが、後半激しいディフェンスと速い展開のバスケットを展開した聖カタリナが抜け出し、勝利した。
2	2月10日	高松商業 vs 松山工業	U2	CC 竹村氏(高知) U1 玉田氏(徳島)	序盤から松山工業が僅差でリードする展開となった。後半に入り高松商業が失速し、そのまま松山工業が逃げ切った。

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>○講義について(講師:阿部 哲也氏・前田 喜庸氏) 講義では「3POのメカと実践」についてだった。3POのメカの基本は【Trust(信頼)とプライマリーエリア・アングル】である。この基本をもとに正しく判定していく為に、自分のプライマリーエリア・アングルにいるプレイヤーを把握しておくことが大事で、その上でDistance & StationaryやReferee the Defenseなどが必要になってくる。これらの基本ができることでいい判定に繋がっていくことを改めて学ぶことができた。</p> <p>○城北 vs 聖カタリナ 主任:阿部 陽子氏 ・プレゼンテーション 審判員としてコート上での立ち振る舞いやプレイの捉え方を自分なりに工夫していかなければならない。特にドライブやショットの判定の際に、覗き込むようにしてプレイを捉えていることがある。覗き込むようにしていると瞬時の対応に遅れてしまい正しい判定ができなくなるリスクが高くなるので、しっかり1歩を出して捉えるようにしなければならない。また1歩を出すことで見栄えも良くなるので意識して取り組んでいきたい。</p> <p>・メカニクス ゲームを通してローテーションミス等は起きなかったが、ダブルホイッスルになる事やセカンダリーとして鳴らさないといけない場面で鳴らなかつたりしてしまった。講義での内容にもあった自分のプライマリーエリア・アングルの確認不足やセカンダリーの意識や準備が足りていなかった。また、相手レフェリーを信頼できていなかったのが起こってしまったのもう一度基本を確認していきたい。</p> <p>○高松商業 vs 松山工業 主任:阿部 陽子氏 ・メカニクス ゲームを通して両チームともにオールコートからプレッシャーをかけたディフェンスをしている事が多かった。それに伴ってセンターが残ってトレールと協力しないといけない場面でセンターでのポジションが上がりきれていなかった。その為センターでのアングルが悪くなり、自分の後ろから選手が飛び込んでくるようになるのでプレイを捉えれない。オールコートでのディフェンスの際のセンターはバックコートのフリースローラインの延長線上付近まで上がった方がいいと教えていただいた。</p> <p>・レフェリーディフェンス 全体を通して、もう少しレフェリーディフェンスを意識した方が良いとお話をいただいた。ヘルプや体のよせ方などディフェンスの動きをしっかりと確認できるような意識、ポジションアジャストを心掛けなくてはならない。</p> <p>○2日間を通して 私はこの2日間を通して、ベーシックなメカニクスの徹底やクロックの管理、TOの方々も同じクルーである事など基本を徹底することがゲームコントロールに繋がることを感じる事ができた。また、自分のこれからへの課題も見つけることができ、非常に内容の濃い2日間を経験することができた。 最後になりましたが、今回の派遣に際し、ご理解とご支援を賜りました、香川県バスケットボール協会の皆様にお礼申し上げます。今後もご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。</p>	

審判員派遣報告書

1	事業名	第26回四国高等学校バスケットボール新人選手権大会	2	日程	2019年2月9・10日
3	報告者	藤野 唯人	4	派遣先	愛媛県総合運動公園体育館

5	大会概要 および 大会結果				
大会名称		第26回四国高等学校バスケットボール新人選手権大会	大会期間		2019/2/9・10
大会内容					
各県上位2チーム計8チームが参加する四国ブロック大会。					
4チームずつ2グループに分かれてのリーグ戦を行ったあと、各リーグの同順位同士で対戦し、					
1位から8位まで順位を決める。					

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	2月9日	高知中央 vs 高松商業	U2	CC 川村 氏(愛媛) U1 岡山 氏(愛媛)	高知中央が終始リードし勝利する展開となったが、高松商業も得意の外郭のシュートで攻撃を続け、最後まで粘り強く戦った。
2	2月10日	海部 vs 高知中央	U2	CC 菊池 氏(愛媛) U1 竹内 氏(徳島)	終始高知中央のペースでゲームが展開された。海部のオールコートディフェンスにより流れが傾きかける場面もあったが、高知中央が強さを見せ、勝利した。

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等				
<p>高知中央 vs 高松商業 主任:小谷 氏(高知)</p> <p>●メカニクス 両チームともゾーンディフェンスであったということもあり、序盤はリードのローテーションのタイミングがつかみづらかった。徐々にスムーズなローテーションができたが、より早く行えるように、チームの攻め方やキープレイヤーを早く認識できる力をつけたい。</p> <p>●CCメンタリティ CCの川村氏が、積極的に声を使ったり、ベンチとコミュニケーションをとったりとゲームを引っ張ってくれていた。対して自分は、それに引っ張られるばかりだった。具体的には、ファウルが起こった際のシューターの確認や、笛が鳴るたびに、ショットクロックの残り秒数をプレイヤーに伝えていた。これらのことは、すぐにでもできることであるため、今後意識したい。</p> <p>●試合を通して 丁寧なプレカンファレンスをしていただいたり、ゲーム中も常に引っ張っていただいたりと、クルーの方々のおかげで、落ち着いてコートに立つことができた。しかし、上でも挙げたように引っ張られるのではなく、CCメンタリティをもって自分もゲームを運営するのだという意識をもって取り組みたい。</p> <p>海部 vs 高知中央 主任:谷 氏(高知)</p> <p>●プライマリ 高知中央の留学生プレイヤーを常に確認しておくということがゲームのテーマであった。特にオフボールの時のポジションの取り合いや、リバウンドの時のお互いの体の寄せ方などである。これらを判定するために、プライマリのレフリーがしっかり見ておかなければならないが、自分はボールウォッチャーになってしまい、判定ができなかつたり誤った判定を下してしまうときがあった。自分のエリアは自分が判定するという意識をしっかりと持ち、ボールウォッチャーにならないようにして、正しい判定ができるようにしたい。</p> <p>●メカニクス 全体的に、スムーズなローテーションができていたが、オールコートディフェンスが起こっている際に、センターが先にフロントコートへ入ってしまい、トレイルが苦しくなってしまう場面がいくらかあった。しっかりとセンターが残ることで、ボール運びの際の判定をしていきたい。</p> <p>2日間、初めての四国大会という舞台で、今の自分にできることを行い、いかにゲームに入っていけるかということを自分自身のテーマとし、参加させていただいた。クルーの方々をはじめ、参加していた方々のおかげで、なんとかやり通すことができた。しかし、課題もたくさん見つけたり、非常に有意義な2日間となった。 最後になりましたが、このような機会をいただけたことに感謝申し上げます。この経験を活かし、よりよいレフリーになれるよう、精進していきます。ありがとうございました。</p>					

審判員派遣報告書

1	事業名	平成30年度 第26回四国高等学校 バスケットボール新人選手権大会	2	日程	2019年2月9・10日
3	報告者	上村 公己	4	派遣先	愛媛県総合運動公園体育館 伊予市民体育館

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	第26回四国高等学校バスケットボール新人選手権大会	大会期間	2019/2/9・10
大会内容	四国4県の男女上位2校が出場する計16校で行われる四国大会。 男女とも2ブロックに分かれて総当たり形式の試合をし、各ブロックの順位に応じて順位決めの試合を行う。 各校新チームとなって初めてのブロック大会で、総体前に経験の積める大きな大会である。		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	2月9日	聖カタリナ学園 vs 高松南	U2	CC 竹内 氏(高知) U1 川人 氏(徳島)	前半から聖カタリナ学園の堅い守りと攻撃力で高松南を圧倒し、勢いそのままにして、勝ちきった
2	2月10日	新田 vs 松山工業	U2	CC 木村 氏(愛媛) U1 山下 氏(徳島)	

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>聖カタリナ学園 vs 高松南 主任:阿部 氏</p> <p>○身体の向きや目線 トレイル、センターで身体の向きがアングルがとれる姿勢になっていない。ボールウォッチャーになっていることが要因であると考えられる。意識すれば変えられることなので、正しい姿勢・目線がとれるようにしたい。</p> <p>○プライマリーの理解 自分のエリア、アングルを正確に把握できていない。どこに視野をあてて、オフェンス、ディフェンスのペアを捉えるか、その意識が低いように感じる。また、クロスコールもあったので、セカンダリー、ヘルプの意識も持って、笛のタイミングなども工夫したい。</p> <p>○メカニクス 両者のオフェンスの特徴として、聖カタリナはスキップパスやミドルドライブからのキックアウトなどサイドチェンジをしそこからクイックドライブやクイックシュートが多く、高松南はパイプエリアを攻めるオフェンスが多く、リードのローテーションのタイミングがつかみにくかった。結果としてローテーションができず、重たい状況がいくつかあった。サイドチェンジに対して、クローズダウンしてローテーションが始まったら行ききる、また、クイックに対してバックペダルで戻るとはっきりと動く必要があったように感じる。</p> <p>新田 vs 松山工業 主任:柏原 氏</p> <p>○身体の向きや目線 前日の試合よりは意識して身体の向きや目線がとれた一方で、試合に入り込んでいくほどボールウォッチャーになっていることを指導されたので、正しい姿勢・目線を確実に身につけていきたい。</p> <p>○プライマリーの理解 リードポジションからトレイルが捉えているベースラインドライブに対して、トレイルと同じタイミングで笛が鳴ったケースがあり、ボールウォッチャーになっていることにより、リードからウイングからのドライブを捉えているため、リードから自分が見るべきエリア、アングルをもう一度整理しておくべきだと感じた。</p> <p>○メカニクス ダブルトレイルになるシチュエーションがあり、少しメカが崩れる局面があった。オールコートディフェンスでセンターポジションがバックコートで後ろから残って視野をあててしまったり、フリースローポジションを間違えてしまったことが原因で崩れたりした。意識すれば変えられることなので、正しい知識を持って取り組みたい。</p> <p>2日間四国大会を経験して、自分の審判技術や知識が乏しいことをはっきりと気づかされた。試合までに審判としての準備を大切に行っていきたいと感じた。非常に内容が濃く刺激的な2日間を経験することができた。 また、様々な方々の支えで活動ができていた事を再確認できた。感謝の気持ちを忘れず活動をしていきたい。 最後になりましたが、今回の派遣に際してご協力をいただきありがとうございました。経験を活かし、成長していきたいと思っております。</p>	

審判員派遣報告書

1	事業名 第26回四国高等学校 バスケットボール新人選手権大会	2	日程	2019/02/09.10
3	報告者 福本蒼真	4	派遣先	愛媛県立総合運動公園体育館

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	第26回四国高等学校バスケットボール新人選手権大会	大会期間	2019/02/09～10
大会内容	四国各県上位2校が出場するブロック大会		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	2月9日	海部一松山工業	U1	川島氏(高知) 横井氏(徳島)	終始、海部がリードし勝利した。
2	2月9日	高松商業一海部	U2	有澤氏(高知) 川島氏(高知)	序盤から接戦で高松商業が辛勝した。
3	2月10日	高松商業一高知工業	U2	坂田氏(愛媛) 横井氏(徳島)	序盤から接戦で高松商業が辛勝した。
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>海部vs松山工業 主任 三谷氏</p> <p>○メカニクス ボールウォッチャーになっていることがあり、スイッチサイドが起こった際に気付くのが遅れ崩れてしまうことがあった。特にセンターからトレイルへ上がるのが遅くなるが多かった。捉えるべきプレーが落ち着いたらトレイルを作り次のプレーに対応出来るようにしたい。</p> <p>○テンポセッティング 試合序盤でのハンドチェックを吹けず、結果としてイリーガルな接触に繋がってしまった。特に試合序盤に笛を挟み試合を落ち着かせる必要があった。</p> <p>海部vs高松商業 主任 岡山氏</p> <p>○レフリーディフェンス メカニクスを意識し過ぎるあまりレフリーディフェンスに対する意識が少し薄れてしまっているということをミーティングの際にご指摘頂いた。またオフボールでのディフェンスのポジションやスクリーンに対して確認ができるポジショニングを意識出来るようにしたい。</p> <p>○メカニクス プライマリーエリア、アングルを意識し、特にセンターが3POの生命線である事を意識し判定をするようにカンファレンスをして試合に入った。アングルが取れ積極的にジャッジをする事が出来たが、逆にエリアではないプレーをジャッジしてしまう場面もあった。自分のプライマリーをしっかり持って判定できるようにしたい。</p> <p>高松商業vs高知工業 主任 竹村氏</p> <p>○メカニクス カンファレンスの際に積極的にローテーションをする事とフロントコートに入ると高い位置でトラップがある為アーリーローテーションが出来るように試合に入った。アーリーローテーションは積極的に行うことが出来た。セットになってリードのスイッチサイドは積極的だったが、センターとトレイルがボールウォッチャーになりローテーションが崩れている場面があった。プレーに合わせてローテーションを行い、ボールサイド2を作りプレーをしっかり捉えるようにしたい。</p> <p>○ベンチ管理 ハーフタイム中に次試合のチームが1チームしか来ておらず、片側のチームは次試合のチームがアップをし、もう片側は現試合のチームがアップをしている状態であった。ベンチの監督から指摘があり気付いたが、そういったところでも管理が出来ないといけないと思った。</p> <p>○2日間を通して 今回初めてのブロック大会として参加させて頂いた。非常に緊張感のある試合を経験できて、自分のレフリングに対して真摯に向き合うことができた。毎試合課題を持って取り組み少しずつ上達出来るように努力したい。</p>	